

# 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

開催日：令和4年11月1日（火） 午後2時～午後4時

会場：大岡公民館2階 大会議室

地元参加者：58人（男性38人、女性20人）

市側出席者：荻原市長、下平企画政策部長、中澤保健福祉部長、中村商工観光部長、櫻井農林部長、勝野教育次長、高木支所長

集約担当：大岡支所

会議形態：未来トーク方式

## 【議題に関する会議】

### <1 鳥獣被害対策について>

#### 《提案》

昨年実施した中学生以上の住民アンケート結果で、日常生活の不安や困りごとの地域ランキングの一位は鳥獣被害であった。住民としては、電気柵の設置や草刈りをして緩衝地帯を設けたり、餌となる野菜くずを出さない等の努力はしているが、シカとイノシシの作物被害がひどい状態である。特にシカは個体数が多い。

電気柵を設置する場合は、長野市から補助金を設けていただいているが、農家全世帯が電気柵を設けることはできないし、シカは電気柵を飛び越えて侵入してくる。

そこで、改めて長野市としての支援と他地区の取組成功例について教えていただきたい。

#### 《回答》

はじめに、野生鳥獣による農業被害額は、令和3年度市全体で7,881万円、大岡地区は約100万円、そのうち7割に当たる66万円がイノシシと二ホンジカによる被害である。

野生鳥獣から農業被害を減少させるためには3つの対策がある。

1つ目、駆除・個体数調整対策は、増えすぎた個体数を減らすもので、猟友会の皆さまに活躍いただいている。

2つ目、防御対策は、電気柵などで農地等への獣の侵入を物理的に防ぐもの。

3つ目、環境整備対策は、緩衝帯の整理、やぶ払いによって、野生鳥獣と人間の活動区域の境目を明確にする。このことで獣の警戒心を惹起し、人間と獣の住み分けをするものである。

有害鳥獣対策は、これら3つの対策をバランスよく実施していくことが大切で、市は有害鳥獣対策委員会を通じて、猟友会に二ホンジカなどの捕獲補助金や電気柵を設置する場合の補助、狩猟免許取得の支援を実施しているほか、くくり罠の現物支給なども行っている。

令和3年度の大岡地区への（鳥獣被害対策に係る）市の支援は、総額342万2千円である。主なものは、捕獲補助金279万円、これは二ホンジカ230頭とイノシシ27頭分、電気柵設置補助金55万8千円で（電気柵設置）10カ所分である。

また、ソフト面での支援もしており、例えば、電気柵を設置する場合は、獣種により電牧線の地面からの間隔や高さが変わってくるため、そうした技術的なアドバイスや、要望により県の鳥獣対策専門官や農業改良普及員などを講師に招き、被害防止に向けた研修会、農業被害の現場での指導を実施するなどの取組も今後強化していきたいと考えている。

市の財政も厳しい折ではあるが、引続き予算の確保に努めていくので補助制度を活用いただきたい。

次に他地区の取組事例をいくつか紹介させていただく。

若穂地区では、住民による電気柵管理運営委員会を立ち上げて、地域ぐるみで野生獣侵入の防止のための電気柵設置事業を実施している。この取組は、農地を個々または小規模な範囲で囲むものではなく、地区全体を電気柵で囲み有害鳥獣から地域を守るといった計画で、平成25年度から住民主体で電気柵の整備を始めた。昨年度末で約34kmが完了し、未整備区間7kmは令和5年度に完成の見込みである。

若穂地区の農家、猟友会の皆さんからは、以前と比べると農業被害が減ったという評価をいただいている。

なお、電気柵は電牧線に草などが接触しないよう定期的に草刈などを行う必要があるため、電気柵の効果を持続させるためのメンテナンスも地域ぐるみで行っていただいている。ただし、延長が伸びればそれだけ作業も大変になるため、今後はこちらの方の課題が大きくなっていくと想定している。

県内の取組事例を紹介する。辰野町の川島地区鳥獣対策委員会では電気柵の設置のほか、県の地域発元気づくり支援金を活用した事業に取り組んでいる。この事業は、サルが目撃情報を専用カレンダーに記録し、その記録をパソコンソフトで処理して行動マップを作成するというもので、このマップによりサルの行動パターンを把握して、群れの追払いにつなげていく取組を実施している。

また県等の担当者を講師に招き、住民主体で野生鳥獣の生態や追払い方法を学ぶ勉強会の開催や当番制で緩衝帯、藪払いなどの環境整備対策を実施するなど、マンパワーで野生鳥獣から農業を守る取組に力を入れている。

いずれの取組も行政や農協等の支援は不可欠だが、地域ぐるみで取り組むことが有害鳥獣対策を実施していく上で重要となっている。

まとめになるが、野生鳥獣被害の発生、継続の背景には、過疎化、高齢化による耕作放棄地の増加といった影響により、野生鳥獣の生息域が拡大したことも要因と考えられる。

また、鳥獣害は離農の動機となり、このことが耕作放棄地を生み出し、さらなる獣害の発生につながるという負のスパイラルを招きやすいのは明らかである。

こうした課題に対し、野生鳥獣による農業被害の軽減に向けて地区役員の皆さまや猟友会員の皆さまを含めた地区全体による地域ぐるみの取組が求められるところである。

改めて大岡地区の皆さまには、野生鳥獣に負けずに、個人でできること、地区でできることに地道に取り組んでいただくようお願い申し上げますとともに、市としても皆さまのご意見、ご要望を伺いながら、野生鳥獣対策を実施していきたいと考えている。

【櫻井農林部長】

#### 《意見》

大岡には猟友会員が22名ほどいるが、半分ぐらいが罠の人である。鉄砲を撃つ人が少ないため、罠を仕掛けて、止め刺しを鉄砲でやってくれる人が少ない。とにかく罠を仕掛けないとシカやイノシシが取れないため、仲間が増えてくれるとありがたいと思っている。

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

また、農協が窓口になっている大岡地区有害鳥獣対策委員会（注）という組織があるが、特にIターンの方は知らない人が多いと思う。年会費は200円なので、隣近所に声を掛けていただけて入っていただくとともに、鳥獣被害にあつて困ったことがあった場合は、農協に声を掛けてもらえれば猟友会に連絡がくるので、猟友会として協力できることがあれば対策を行う。

（注）大岡地区有害鳥獣対策委員会は、大岡地区猟友会と協力して有害鳥獣対策を行う。

### 《意見》

若穂地区の取組で（電気柵を）小さな畑ずつではなく大きく巻いてというものがあつたが、高低差の大きな大岡ではそれに準ずることはできないと思う。

また、鳥獣害は離農の動機となり、耕作放棄地が増え、次なる獣害の発生につながる負のスパイラルを招きやすく、解決策としてマンパワーであるとか、地域ぐるみの取組が必要と言っていたが、地域にマンパワーがないのが問題であると思っている。

### 《意見》

NHKの番組ではイノシシが1.5mの柵を助走なしに飛び越えた。これでは2、3mの柵を作る必要がある。私の経験では上も全部網で覆ってしまうのが一番有効であるが、これは大変で長い杭が何本も必要になる。こういうものも検討対象としてもらいたい。

### 『担当課：農林部森林いのしか対策課』

## ＜大岡地区にDX（デジタルトランスフォーメーション）特区を設け、中山間地区に新しい風を吹かせたい！＞

### 《提案》

コロナ感染の蔓延でビジネスの形態がコロナ以前と大分変わってきた。会社に出勤せずに自宅でパソコンを使って仕事をする方も増えてきた。それに伴い、都会から長野県に移住する方も増えていると聞いている。大岡でもプログラミングや映像などで生活を立てている方が移住している。また、テレワークや2拠点生活を見て移住を検討される方が数多くいる。移住検討中の方がテレワーク等で会社支給のWi-Fiデータ等で通信を行おうとした場合、地形や通信状況の問題で接続できなかったという話も聞いている。

ついでに、長野市が行政のデジタル化や移住対策に注力している中で、大岡地区にDX特区を設け、インターネット環境や移住体験施設を兼ね備えたコワーキングスペースの設置を提案する。具体的には大岡活性化センターの活用を提案する。DXや移住促進目的での利用は、目的外利用になると思うが、DX特区として中山間地区のDX化に限り、使用頻度の低い公共施設の目的外利用の規制を緩和していただきたいと考えている。

また、国等ではコワーキングスペース設置等の補助金があるので、それを利用してIT設備や簡易宿泊施設として最低限の設備、消防の基準を満たせるよう導入することはできないか。

昨年度、大岡地区のアンケート調査において60代の6割、70代の4割がインターネット等を利用しているという結果が出ている。この世代の方々が今後10年、15年とこの地域で暮らす中で、冒頭で述べたDXの概念、進化し続けるデジタル技術を使い、人々の暮らしを豊かにすることを実現するために、行政として中山間地区に拠点を設け、住民のデジタル格差解消を推進することに支援していただきたい。

それと同時に長野市は、移住定住を市街・都市部にアピールしているので、中山間地域への人口増進に取り組むためのメリットにもなる。そして、ほぼ活用されていない施設の有効活用が可能になれば、公共施設マネジメントの観点からも効果が期待できるのではないかと。一石三鳥のメリットが市側にも、住民側にもあるように思われる。是非、DXを活用した拠点活用について市の見解を聞かせていただきたい。

### 《回答》

テレワーク、リモートワークについては、首都圏を中心に定着してきており、このような働き方の変化や働く場所の分散の動きについては、首都圏からの交通の便がよく、郊外には豊かな自然を有する本市にとって大きな追い風になるものと考えている。

そのような中で、コワーキングスペースやシェアオフィスの現状は、中心市街地や長野駅周辺に多く立地しており、それぞれ企業やNPO法人などが運営している。主にホテルやオフィスの一角をそういった施設（コワーキングスペースなど）として、現在利用しているという状況になっており、R-DEPOT（アールデポ）は、提案にもあつた国の補助制度を使ってこの春開設した施設である。

R-DEPOTは、西後町にある昔のNTT後町北ビルをリノベーションしてテレワーク等が可能な施設として改修したものである。建物は三階建てで約2,000㎡の面積を持っており、市は補助金として約4,100万円を支援した。このうち半分は国のテレワーク交付金を充て、もう一つは、地方創生臨時交付金を充て整備をしたものである。

テレワークやコワーキングの魅力は、異なる業種の方々が1カ所に集まってお互いに情報交換をすることによって、新たな産業や技術を生み出すといった大きな魅力があるということで、非常に流行ってきている施設となっている。

このほかに戸隠中社区でも戸隠学習館を改修して、民間主導で施設整備が進められている。市内の中山間地では「鬼無里の湯」が、コワーキング等が可能な施設となっており、戸隠キャンプ場でもワーケーションが可能となっている。また、今年の4月に開設した飯綱高原の「森の駅Daizahoushi」もワーケーションができる施設となっている。ただ、現状としては、中心市街地から遠いため、まだまだ商用ベースとして成り立つには利用者が少ない状況である。

いずれにしても市として新たな施設整備の計画はないが、民間の皆さまと連携してスタートアップ企業の支援やサテライトオフィスの誘致に積極的に取り組んでいきたいので、設置・運営を具体的に考えている方がいれば相談いただきたい。

〔中村商工観光部長〕

### 《回答》

大岡地区活性化センターは農林部所管の農業振興施設という位置づけで、コワーキングスペースのような使用を想定していない施設である。現状のままコワーキングスペースとしての活用は難しいが、具体的な計画をお持ちの方がいれば、民間への譲渡を含め施設の利活用の可能性について相談に乗っていきたいと考えている。

〔櫻井農林部長〕

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

### 《意見》

情報ネットワークということで、家には光ファイバーが来るようになったが、大岡地区内の山の上の方に行くと携帯の電波が入らないところがある。現在5Gの時代になってきているので、是非5Gを誘致していただきたい。

### 《回答》

5G対応エリアが今どういう状況になっているか詳細は把握していないが、大岡地区の通信環境という部分で言うと、過去に電波が入りにくいところがあるということで電波が入るようにと事業者に要望したことがある。

その中で、大岡地区はフレッツ光の整備エリアになっており、概ね、フレッツ光回線であれば通じている。NTT東日本のホームページで住所を入力するとエリアを検索できるので確認いただきたいというのが一つである。

それから、長野市は市街地でも5G（対応エリア）は全域とはなっておらず4Gまでとなっている。au、ドコモ、ソフトバンクについては4G（対応）エリアには一応入っているのですが、（電波の）入りが悪いということであれば各キャリアにご相談いただきたい。5Gはキャリアごとの計画でエリアを広げていくので、その中で長野市はそれほど遠くないうちに5G（対応）エリアに入っていくと思われる。

〔下平企画政策部長〕

### 《意見》

なぜDXを利用した拠点整備をとということを伝えたかということ、大岡地区は人口が減ってきていてだんだんと活躍できる人が高齢になってきている中で、住民の方々がそれぞれの分野で頑張っているいろいろなことを立ち上げている。その点と点を繋いでくれるのは行政の力なので、点と点を繋いで線にさせていただいて、さらに面にさせていただいて、大岡地区全体を盛り上げていきたいので、そんな思いを、住民の活動を理解して支援いただけるような施策をお願いしたい。

『担当課：商工観光部商工労働課、農林部農業政策課、総務部情報システム課』

## 【自由討議】

### <1-1 大岡地区の公共交通に関する要望>

#### 《意見》

大岡地区の高齢化については、申し上げるまでもないが、高齢化が直面する課題の一つに移動手段の確保が挙げられる。幸い大岡地区で運行されているフルデマンドの乗り合い交通「ハッピー号」は、通院、買い物、サロンやサークル活動、小中学校の教育現場でも利用されており、移動手段のない住民にとって、なくてはならない利便性の高い、また満足度も高い公共交通となっている。

令和3年度に実施した住民アンケートの結果では、日常生活の主な移動手段について、ハッピー号の利用率は年齢が上がるとともに増加し、特に85歳以上の女性はハッピー号が最も多いという回答で、ハッピー号があるから安心して自動車免許が返納できるという声も少なくない。

もうしばらくハッピー号を継続していただきたいというのが、切なる願いであるが、交通政策課において長野市全域の公共交通網に関する計画が策定され、随時見直しが行われていることは承知をしている。

まもなく信州新町でAIを活用したデマンド運行の実証運行が始まるが、将来、この大岡地区においても公共交通の見直しを判断された場合、高齢者は市のホームページから情報を収集することが困難であり、チラシなどの文字も読めづらい年代にあたるため、混乱することなく取り残される住民がいないように十分な移行期間、周知期間を設定して、丁寧に対応していただくようお願いする。また、ぎりぎりになって、全容を明らかにすることができないよう重ねてお願いする。

#### 《回答》

ハッピー号については、大岡村時代に運用されていたものを合併後に長野市が引き継ぎ、現在はデマンドによる市バスとして運営をしている。

ハッピー号は、コロナ禍の中でも皆さんに大変乗っていただき、まさに住民の足として定着していると思っている。

本市では今年度、長野市の地域公共交通計画という長野市全体の公共交通の維持確保に向けた計画を策定している。その中で、大岡地区で運行されているバスの大岡篠ノ井線、デマンド運行のハッピー号の運行方法の見直しを計画に位置付けている。

信州新町で11月末からAIオンデマンド交通の実証実験をやることになっているが、この際も、信州新町の住自協役員の皆さんへの説明とか、地区全体の回覧をかなり早い時期から行った。それから、住民の皆さんへの説明会や、このデマンドバスの予約がスマホで電話予約という形であるが、スマホの操作研修会も実施している。

また、11月5日、6日に行われる信州新町フェアに併せて、実際にスマホや電話から予約し、乗ってみるといった乗車体験会を無料で実施する予定である。信州新町においてもかなり早い時期から住民の皆さんにご説明をさせていただいている。

大岡地区においてもハッピー号の見直しという部分で、地域に事前にご相談させていただきながらしっかり対応していきたいと思っている。説明も十分にさせていただきたいと思っているので、よろしくをお願いしたい。

〔下平企画政策部長〕

#### 《意見》

私も70過ぎて、ハッピー号を利用するようになった。車の運転がとても苦手で、冬場は特にハッピー号を利用させていただいているが、すごくいいなと思っている。

ただ、もう少し便利に利用できればいいと思っている。予約制であることと、郵便局にちょっと何か出していきたいときに、郵便局までは行くが、（用事が済んで帰りは）待ってなければいけない。（行きとは）違う車がくるため。そうするとなかなか利用するのが、おっくうになってしまう。

ハッピー号はこれから高齢化社会の中ではすごく助かると思うので、より充実した、使いやすい利用ができればいいなと思う。

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

### 《回答》

ハッピー号は、いまでも少し特殊な運行をしているところもあり、かなり住民の皆さんに使いやすいバスになっていると思う。ただ、ハッピー号は市バスとして運行しており、タクシー的な使い方とは違ってくるので、そこまではなかなか厳しいと思うが、今後、AIデマンドの導入も含め、どのように変えていくか、どのように導入していくかということも、ご相談をさせていただきたいと思うので、いろいろご意見賜ればと思う。

〔下平企画政策部長〕

### 《意見》

ハッピー号については、以前は車がない人とか、高齢者だとかいろいろな条件があって、登録した人だけが利用できる制度だった。それが長野市と合併して、バス路線が大幅に削減されたことに伴ってハッピー号の制度が変わり、誰でも利用できる制度となった。篠ノ井に行くバスは、日に4回ぐらい。だからハッピー号はどうしても守らなきゃいけない。これから、高齢化が進んでいくとだんだん車の免許を取れない（更新できない）人も増えてくる。今は何とか80歳過ぎても車に乗っているが、もっと歳を取ればハッピー号しか頼るものがなくなる。これはどうしても、守っていただきたい。今利用していない人もそう思っていると思う。

### 《回答》

本来福祉有償運送という形でやる部分と、市バスの運行の部分といったところでは課題がないわけではないというところがある。その辺の整理も含め、ハッピー号については、いろいろこちらからご提案をさせていただきたいと思っている。

地域の足になっているという部分は私どもとしても非常によく理解しているところである。その辺も含め、ご相談させていただきたいと思っている。

〔下平企画政策部長〕

### 『担当課：企画政策部交通政策課』

## <1-2 健康増進対策に関する要望>

### 《意見》

私は現在、在宅で、主に生活習慣病予防の活動に携わり、大岡地区ではボランティアでご当地体操教室などの運動教室を開催している。（大岡地区で）毎週水曜日は運動の日、交流の日となるよう、関係者と連携し少しずつ進めている。そのような活動をする中で日々思うのは、誰もが健康がなにより大事と口では言うものの、食事や運動などの取り組みを積極的に実践しているかということ、必ずしもそうではないということである。

（大岡地区）住民アンケートの結果では、自分や家族の健康に対する不安感がすべての年代で上位にランクインしていた。健康づくりや介護予防に関わる専門職が日々力を尽くしているのにいつまでたってもモグラたたき状態が変わらないのは、早い時期から「今よりもっと健康になろう」と思う健康志向が高まらないことに原因があると考えている。

健康行動につながる環境の整備、健康志向の低い層へのアプローチなどの具体的な対策も必要であるが、市全体の健康づくりに対する気運を高める事の方がより効果的ではないか。国や自治体の健康推進の施策もあるが「誰が発信するか」の方が、影響力が大きく大きな集団への強い動機づけになると思う。

荻原市長が表明されている目指す将来の長野市の姿「健康増進都市」の実現は、個人の充実した人生100年となり、医療費や介護費の適正化をもたらし、人も財政も豊かになることは申し上げるまでもない。

そこで市長にお願いしたい。朝のラジオ体操の配信に続き、市民の健康づくりに対する機運が高まるようなインパクトのあるメッセージや企画を発信し続けていただくようお願いしたい。私も微力ながら今後も地域住民の健康増進・介護予防のお役にたてるよう努めていく。

最後になるが、個人的には、健診受診率アップ、野菜の摂取や減塩などの食習慣の取組みも進めていただきたいが、今後具体的に考えていることがあれば教えていただきたい。

### 《回答》

長野県、長野市も平均寿命は全国トップクラスである。中核市の中でも長野市は（平均寿命が）一番だが、健康寿命については残念ながら中核市の中でも真ん中ぐらいで、フレイルや介護にならず健康寿命をどう伸ばしていくかということが、市全体の課題だと認識している。

大岡体操の普及に取り組んでいるということをお聞きしたが、大岡では体操サークル等が盛んということも存じている。そういう意味で大岡は、先駆的に取り組んでいると考えている。

また、糖尿病あるいは高血圧にならない、なってしまうと医療費も多くかかるため、保健師、管理栄養師が保健事業と介護予防の一体的実施に取り組んでいる。健診結果の科学的なデータに基づいて、医療機関に繋がっていない方に、保健師、管理栄養師がお話をさせていただいている。

また、子育て世帯に向けて減塩指導ということも、保健所を中心に取り組んでいる。そのほか、既存の組織ではなくサークルなど自分の特技を活かして立ち上げ、健康増進に取り組みたいということに対しては、専門的な講師をむけるなど立ち上げるための活動支援をしている。

今は違うが、コロナ禍で自粛ムードが高まり、特に高齢者の方々には、なるべく外に出るのは控えて欲しいという時期もあった。心配なのは、筋肉低下からのフレイルである。

そこで、筋肉体操で有名な順天堂大学准教授の谷本道哉先生に、高齢者でも簡単にできる筋肉体操（「シン・長野市はつらつ体操」）を監修していただき、市長と先生と一緒に動画を撮影した。今後これを普及させたいと思っている。また11月26日には、先生の講演会も予定している。この筋肉体操は高齢者の方もやりやすく、続けることによって、筋肉も復活できると谷本先生から聞いているため、新しい取組として進めたいと考えている。

健康増進、あるいはフレイル予防、介護予防ということに関しては、市を挙げて頑張っていきたいと思っている。

〔中澤保健福祉部長〕

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

### 《市長》

私としても、これまで個人的に続けてきた朝のラジオ体操を市全域に展開することによって、フレイル予防などに寄与したいと思っている。

ラジオ体操の良さというのは、健康増進はもちろん重要であるが、大きく三つ良いところがあると思っている。

一つ目は、NHKラジオ第1放送で6時30分から始まるので、それに併せて皆さん起きてくる。リズム感ある規律ある生活リズム。

二つ目が、地域の皆さんが1カ所に出てくるというところで、地域住民同士の安全確認にも繋がっている。地域コミュニティの場となっており、皆さんワイワイガヤガヤしながら、ラジオ体操前後で会話も弾んでいるようである。

三つ目は、一日の運動の中で適度な運動をするという良さがある。「さあラジオ体操やるぞ」となると、思いのほか誰でもできるという良さもあると思う。

市全域に展開していきたいと思っている中で、すでに長い期間ラジオ体操をやっている地域のノウハウを伺い、勉強をさせていただいている。三輪地区で実施している方法が参考になるが、神社の境内で、オートマティックで6時30分になるとラジオ体操がかかり、終わると（自動的に）切れるというシステムを導入してやっている。その方法だと当番が行かないと始まらないということもなく、行く、行かないを自分で決めて、地域の方々が集まって体操をやっている。ストレスフリーな形で地域の皆さんが健康増進に取り組んでいるというのは、非常に参考になるし、場所や地域住民の皆さんの理解があれば、そのようなシステムを導入してやっていくというのも一つの手ではないかと思う。

タイマーとラジカセだけで投資も少ないので、そのようなことも念頭にいれながら、市全体で健康増進活動にしっかり向き合っていきたいと思っている。

### 《発言》

市長のラジオ体操の件、とても素晴らしい事だと思う。

大岡地区では戸別受信機が各家庭にある。朝のちょうどいい時間帯にアナウンスがある。ぜひその時間帯を利用してラジオ体操を流していただければ、皆ラジオ体操をすることができるのではないかと思う。

是非、放送のスケジュールにラジオ体操を組み込んでいただければと思う。

『担当課：保健福祉部保健所健康課、国民健康保険課、地域包括ケア推進課』

## <2 補聴器購入に補助金制度を設けてほしい>

### 《意見》

大岡の高齢化率は60%を超えて耳が遠い方が増えている。補聴器を購入するにあたり、国に制度（補聴器購入補助制度）はあるが、一番ゆるい基準で耳から40cm以上離れたところでしゃべった言葉が聞き取れないというのが基準である。これは非常に厳しくて日常生活で会話ができる基準ではない。耳が聞こえないと認知症の原因になるし、人との交流ができなため生きがいの問題につながって精神的な健康に悪い影響がある。

多くの自治体で国の制度に上乘せした補聴器購入の補助制度がある。長野市でも制度を作っていただきたい。

それから、電話の受話器の音声を増大する装置、呼出音を増大する装置、音声を増大する装置が付いている電話機も売っているので、補助対象に検討いただきたい。

### 《回答》

高齢者における中等度難聴者を対象に、いろいろな補助制度があることは十分承知している。

先ほど難聴と認知症の関係について指摘があったが、国の研究機関から「中等度の難聴者が補聴器を使うと、一部の認知機能の低下が抑制される可能性がある」との研究データが出ている。また、世界の認知症の権威からなるランセット委員会でも、難聴と認知症の関係について、「高血圧や肥満、過度の飲酒と並んで、45歳から65歳までの中年年齢層において改善することが認知症を予防する上で効果的である」ということなので、認知症予防については、体系的に整理していく必要があると思っている。

新潟市では、耳鼻科と連携して試行的に補聴器購入費の助成を行っている。長野市も医師会と協議を重ね、どのような補助制度がいいのか、成果検証をどのような仕組みで構築するのがいいのかなど調査研究していきたいと考えている。

〔中澤保健福祉部長〕

『担当課：保健福祉部高齢者活躍支援課』

## <3 大岡サポーターズの活動と長野市への要望について>

### 《意見》

大岡小中学校サポーターズはPTAを解散し、今年の4月からその後任の組織として活動を開始した。

PTAは、学校の中で先生と保護者が活動しているということが中心だと思っているが、我々サポーターズは、学校の中に留まることなく学校の外でも活動している組織で、大岡の自然豊かなところで子どもを育てていくということに対して、子育ての魅力を教育から作っていききたい、学びから作っていききたいということで日々試行錯誤している。

中山間地で子どもを育てるということは、市街地で子どもを育てるのとは違って中山間地特有の悩みが数多く存在している。

そして大岡では、子どもの数が著しく減ってきていて、保育園は休園という状態、そして小中学校の存続が危ぶまれるという状況で子育てをしていて、安定した状況ではないことから色々な不安が付きまとうという現状である。

こういう状況の中で子育てをしている母親達の声がなかなか行政に届かない。どこかでその声が立ち消えてしまっている。我々の声をどうやって届けたいか悩んでいるというのが現状である。

長野県、そして長野市も中山間地振興、若者の移住を公約で掲げている。その中で、中山間地で子どもを育てている私たちの現状を本当に見て、聞いて、その課題を拾い上げて欲しいと思っている。全部を市政に頼りたいとか、丸投げするつもりはなく、市政としてできること、我々保護者としてやらなくてはならないこと、地域に住んでいる人としてやらなくてはならないことがあると思っているが、まずは聞いて欲しい、場を設けて欲しい、共に検討していただきたいというのが私の思いである。

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

サポーターズは、毎月「ワイワイ会」というものを学校の先生方と一緒にやっている。ここに来ていただきたいというのが正直なところで、そこに我々の本当の声がある。手始めとして「ワイワイ会」に市長はじめ本庁の方々にお越しいただき、我々と共に検討していただきたい、という思いで今日お願いにきた。

### 《回答》

学校についてランドデザインを含む教育課程の編成は、学校長が定めると法律で定められている。従って、校長の責任において様々な教育課程を編成し、学校を運営している。ただ、学校長が一人単独で決めるわけではなく、地域の方からも十分意見を聞くというのが一般的なところである。

このような中で大岡においては、大岡コミュニティスクールの「縁賀和」さんや、ボランティアグループの「ぶなの木の会」をはじめ、さまざまな皆さまから本当にご協力をいただいていると聞いている。学校からも小中学校の校長、教頭や地域の方々が「ワイワイ会」に出席させていただき、大岡小中サポーターズの代表の方と懇談をしながら、この12月には今後のビジョンも出来上がるということも聞いている。

このようにサポーターズの皆さまはじめ、多くの方々に関わっていただいていることには、まずもって感謝申し上げたいと思う。大岡小中サポーターズの皆さまには、まずはこの学校が抱えるランドデザインに沿って、学校や地域、保護者の皆さま、ボランティアグループの皆さまと思いを共有していただいているということで、今後も是非ご協力をお願いしたいと思っている。

〔勝野教育次長〕

### 《意見》

ここは、高齢化まっしぐらと言われている。若い人たちがいかにここで充実した生活ができるか、というのがずっと課題であった。だから、若い人が充実してやっていける大岡になってもらいたいとずっと思ってきた。

今コロナ禍で、この自然豊かなところで子育てをしたい、暮らしたいという方たちが、お年寄りも若い人たちもかなりいる。そういう人たちの希望を受け入れられるような地区になっていきたいと思ってやっている。具体的などは、若い人がどのようにしたら経済自立ができるかという課題がずっと言われてきたが、中々そこがうまくいっていない。市としてどのような対策をたてているか聞きたい。

### 《回答》

長野市では移住に関する施策をさまざまやっていて、特に子育て世帯の移住等については支援策を手厚くやっている。そういった人たちが定住に向けてどのようにやっていくかは、中山間地域共通の課題であると思っている。

豊かな自然がある一方で利便性がなかなか伴わないところがあることは承知している。長野市としてもやまざと振興計画を作り、長野市には中山間地域が13地区あるが、そういったところでいかに生活をしていけるようにするか、交通だとか生活面を含め色々計画を作りながら地域と一緒に課題解決を図っていくということでやっている。

これをやれば全部解決ということは難しいと思うが、中山間地域の活性化を含め、市として引続き取り組んでいきたい。

〔下平企画政策部長〕

### 《意見》

中山間だけでなく日本の農村全体が非常に衰退してきている。私は、農業と林業でちゃんとご飯が食べていける状態にしない限り日本の農山村は復活しないと思っている。これは主として国の農林政策の問題で、長野市だけの責任とはとても思えない。

本来、長野は農林業が非常に盛んなところである。農林業をどうやって守るのか、長野市に何ができるのか、あるいは、長野県で何ができるのか、それは非常に考えてもらわないといけない。

長野市と合併したときは、1,500人だった人口が今は830とか40とかだと思う。この衰退はもう小手先の問題ではない。農業と林業で食える、それが一番大切なことなので、是非知恵を出していただきたい。

### 《意見》

農業についての話合いの場を持ってもらえるというのは良く分かったが、子どもたちを育てるということに対して私も共に検討したい、協力をお願いしたいのでそういう場を検討してもらうことは可能なのか。

子育ては妊娠期から高校までずっと続くが、母親たちの声を届ける場がない。市役所にワンストップサービスがあるのは分かっているが、この中山間地において色々な課題があり、なかなかそこ（ワンストップサービス）が使えないので、ここで（ワイワイ会で）母親たちの声を聞いて欲しい、届けたいという思いはある。ご検討いただきたい。

### 《回答》

学校運営に関わることに限っては、先ほど申したとおり法的に校長が裁量権を持っており、学校運営や教育課程の編成権については、教育委員会としては入る立場ではないと考えている。

〔勝野教育次長〕

『担当課：教育委員会事務局学校教育課、企画政策部企画課、農林部農業政策課、森林いのしか対策課』

## < 4 水と自然豊かな大岡の未来の姿についての思いと提案 >

### 《提案》

先ほど企画政策部長が、やまざと振興計画があるとか、大岡は未来に必要な地域であるというのを聞いて大変いいなと思ったが、それを具体的に考える場合に、大岡は今の農業地域としてやっていくのが一番である。

もともとの豊かな自然を活かしながら田畑を守っていくというのが大岡の未来につながる姿かなと思う。そのポテンシャルがまだあるし、美しい棚田も昔の方が耕してきたのがまだあるので、それを無下に捨てていわずにきちんと活用して美しい棚田を残していくことで、この大岡がまた再生していくのではないかなと思う。

自然を守りながら農業で大岡を存続させるためにはどんなことができるか具体的に考えたときに、やっぱり豊かな自然、湧水で野

## 令和4年度「ながの未来トーク」集約表

菜や米を育てる。この豊かな山里を長野市大岡のオーガニックビレッジみたいな形でブランディング化して、いろいろな人が「あついい所があるな」みたいな形で農業参画したり、子育てをしたいと思う人が増えたり、それによって耕作放棄地が減って獣害が減るみたいになっていけばいいのではないかなと思って提案した。

今答えを求めたりしないが、プラットフォームを作って、みんなで大岡をどういうふうな形で存続させたらいいかを、農業をやっている人たち、支所、住自協、市長さんも交えて話し合いのできる、大岡の未来プロジェクトみたいなものをやればいいのかなど思っているので検討いただきたい。

### 《回答》

ご指摘のとおり、大岡地区は非常に素晴らしい山里というふうを考えている。

プラットフォームというか、話し合いの場ということであるが、今現在、大岡地区の農業の将来像を農業者の方々に話し合ってもらって「人・農地プラン」というものにまとめたものがある。

昨年3月にまとめたものがあるが、国の法改正により、今度「地域計画」という名前にして再策定することになっている。来年度から策定が始まって、その中では当然、地域の農業者の皆さまに集まってもらって話し合うという形である。この話し合いが先ほどの早川さんから提案のあったプラットフォームという形になっていこうかと思う。

地域のJA、農業委員の方、当然行政も入って話し合いの場を持つので、そこで自然栽培の地域とするといったようなことも提案してもらえれば、また、農業者の皆さまの同意をもらえれば、計画に位置付けられていくかなと思う。

〔櫻井農林部長〕

『担当課：農林部農業政策課』

### 【その他】

#### 《市長総括》

市長になりあと1カ月ほどで1年になるが、まだまだ何も知らない状況の中で、皆さまとしっかり顔を合わせながらご意見をいただき非常に参考になった。また、大変深く勉強をさせていただいた。

防災関係、道路関係、用地関係、子どもたちの見守り関係等いろいろな視点からお話しをいただいた。できる限りの対応をやっていきたいと思っている。また、長野市の50年後、100年先という長い将来の先を見据えながら政策にしっかりと取り組んでいきたい。人口が減っていたり、高齢化が進んでいたりと様々な社会の変化・課題がある。そのような状況にあっても、長野市に暮らす皆さまが住み心地の良い、暮らしやすいまちを創っていきたい。市役所一丸となって皆さまのご期待に添えるような取り組みを進める。